

16 勝 海舟邸跡(神戸海軍塾跡)

中央区三宮町1(阪急三宮駅周辺)

▶ 「摂州神戸村最寄りへ相對を以て、地所借受け、家作いたし、海軍教授致し候義、勝手次第致さるべく候事。」

勝 海舟は、海軍操練所と平行して海軍塾の開塾と、その場所として屋敷の築造を願ひ出ていましたが、その許可が下りました。

海軍操練所の運営・建設費は、幕府から年三千両が出され、元治元年(1864)9月、2か年分として六千両を受け取っています。

しかし、塾の建設・運営費用は不足しており、越前福井藩に助力を得るため、坂本龍馬を福井藩へ遣わしています。海舟は日記に、この屋敷にかかる費用を詳細に記載しています。

それらの費用を合計すると405両でした。

海軍操練所の開所公布は元治元年(1864)5月28日ですが、それまで海軍塾の塾頭を務めていた佐藤与之助が、神戸海軍操練所の教授役となります。

佐藤の後に坂本龍馬が抜擢され、海軍塾の塾頭を務めました。

しかし、この5月28日以降、6月5日の池田屋の変、7月の蛤御門の変が相次いで起こり、11月10日、勝 海舟の罷免に伴い、海軍塾は解散となってしまいます。

坂本龍馬は、海軍操練所に続いて海軍塾の開塾許可が下りた文久3年(1863)4月27日から約1ヵ月後の5月17日に、姉 乙女へ脱藩後2通目となる手紙を書いています。

此頃は天下無二の軍学者勝麟太郎という大先生に門人となり、ことの外かはいがられ候て、先(まず)きやく(客)ふんのよふなものになり申候。

ちかきうちに大坂より十里あまりの地にて、兵庫という所にて、おきき海軍ををしへ候所をこしらへ、又四十間、五十間もある船をこしらへ、でしども二も四五百人も諸方よりあつまり候事、私初栄太郎(高松太郎)なども其海軍所に稽古学問いたし、時々船乗のけいこもいたし、けいこ船の蒸気船をもつて近々のうち、土佐の方へも参り申候。

そのせつ御目にかかり可申候。(途中省略)

すこしエヘンがをしてひそかにおり申候。達人の見るまなこハおそろしきものとや、つれづれにもこれあり。猶エヘンエヘン、

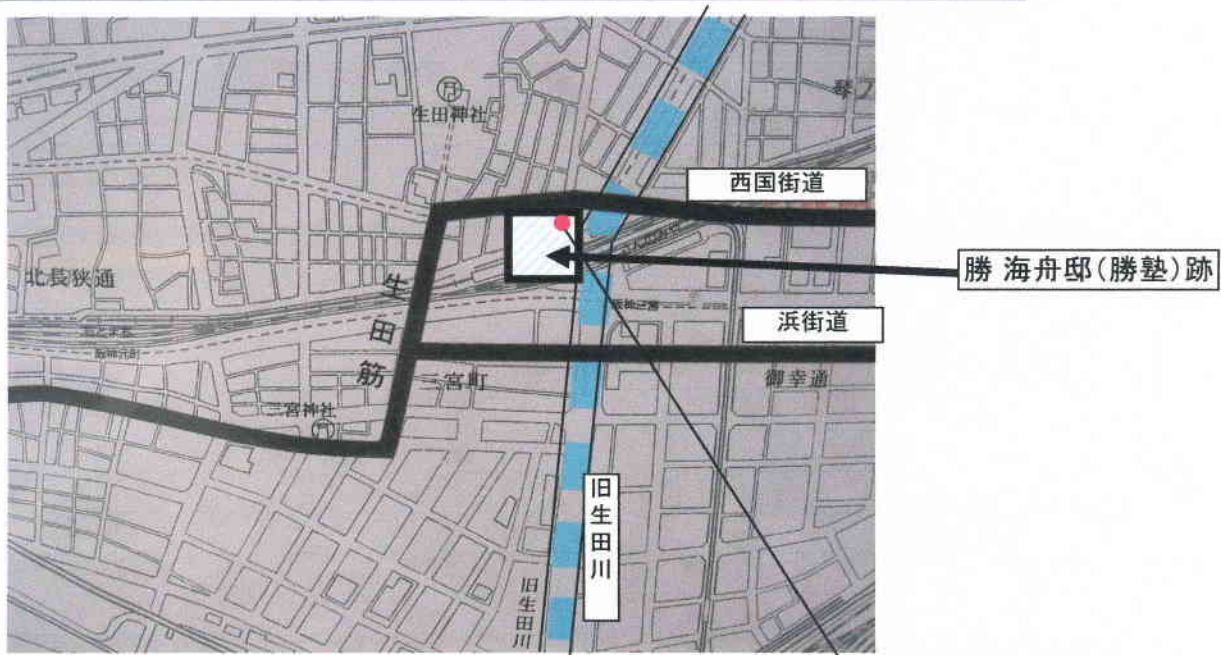
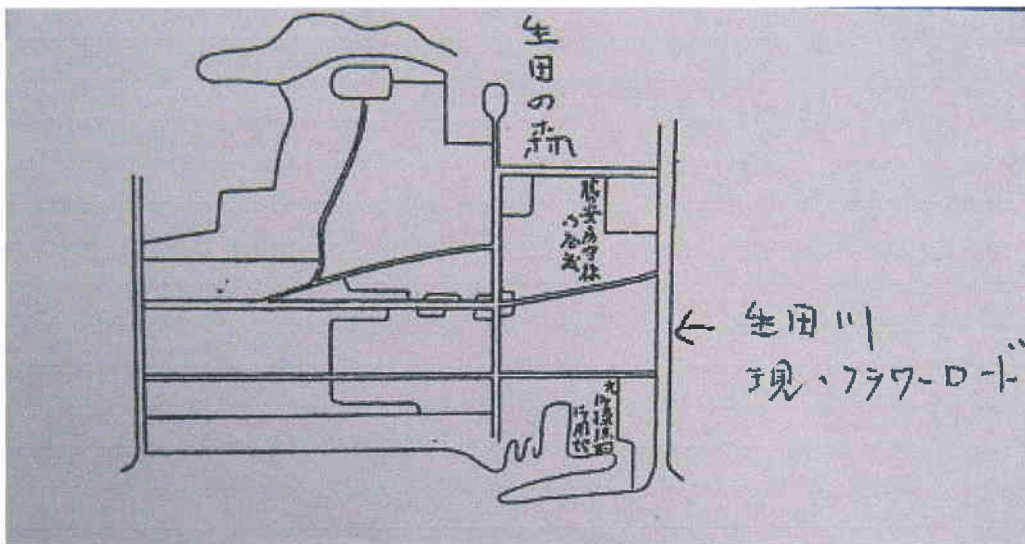
かしこ
龍馬

五月十七日
乙大姉御本

坂本龍馬



勝海舟邸は絵図によりますと、海軍操練所から見ると山手側「生田の森」方面にありました。ちょうど西国街道と生田川が交差しているところより、南西方面にありました。広大な敷地であった事が窺えます。現在の地図とあわせて考えて見ますと、下の図のようになります



三宮駅前にある碑



北東角にあたる勝海舟邸(勝塾)跡

17 旧兵庫県庁舎(県公館)

神戸市中央区下山手通4-4-1

- ▶ この建物(旧南庁舎)は建築家山口半六が兵庫県庁舎として設計し、明治35年(1902)に竣工した近世フランスルネッサンス様式の建物です。昭和58年(1963)まで使用されました。昭和60年(1985)に「兵庫県公館」と名前を変えて再開館しました。建設当初から残っているものは建物外壁のみですが、その歴史的文化的価値の高さから国の有形文化財に登録されています。

館内には県政資料館があり、歴代の兵庫県知事の写真が飾られています。



初代兵庫県知事 伊藤博文



第4代兵庫県知事 陸奥宗光

18 明治天皇臨幸記念碑

神戸市中央区下山手通5-10-1

- ▶ 明治13年(1880)、明治天皇は神戸に行幸されました。同年7月20日京都より到着し、栄町にある對賓館に入りました。その日の夜は提灯行列が行われたそうです。翌21日に兵庫県庁を訪れました。その後、神戸師範、植物試験場、物産陳列場、神戸裁判所、神戸税関を訪れました。この日、楠木正成に正一位を贈位(これまでは正三位)なさっておられます。



19 花隈城跡

神戸市中央区花隈町1

- ▶ 花隈城は、永禄10年(1567)、織田信長が中国地方に勢力を拡大していくための拠点として、荒木村重に築かせた城です。荒木は信長に反旗を翻したため、信長の命によって派遣された池田信輝に攻められ落城します。(天正8年(1580))



花隈城公園

- ▶ 川崎重工業健保組合会館の前に東郷井という碑が建っています。後に元帥、海軍大将となる東郷平八郎寓居跡です。明治18年(1885)7月、神戸の小野浜にて軍艦「大和」(初代)を建造中、当時海軍中佐だった東郷平八郎が監督官として神戸に派遣されていました。和洋折衷の神港倶楽部(第2次大戦で焼失)の和室を寓居先としました。約1年間滞在し、毎日ここから腰弁当で小野浜の造船所に通いました。当時はこの碑のすぐ傍に井戸があり、東郷が朝夕使用したといわれています。東郷の滞在を記念して昭和5年(1930)5月19日序幕建碑されました。この「東郷井」の命名をし筆を取ったのが財部彪(たからべ たけし 当時の海軍大将)。碑の裏の撰文を書いているのが美文家としても知られる小笠原長生(おがさわらながなり 当時の海軍中将)です。



東郷平八郎

東郷平八郎(1848～1934)。弘化4年(1848)1月27日、薩摩国鹿児島郡加治屋町に生まれました。少年時に薩英戦争に参加。戊辰戦争では薩摩藩軍艦「春日」に乗り組んで阿波沖海戦、宮古湾海戦、函館湾海戦に参加しています。維新後、英国に7年間留学。日清戦争では、巡洋艦「浪速」艦長として豊島沖海戦、黄海海戦、威海衛攻撃などに参加し、名を挙げます。日露戦争では、連合艦隊司令長官の大抜擢。必ずしも日本有利とはいえない日本海海戦でバルチック艦隊に圧勝、期待に応えます。昭和9年(1934)88歳にて逝去。